

第十回漱石記念漢詩大会

受賞作品

最優秀賞

山梨県 栖竹 高山一雄

遊芳野

芳野に遊ぶ

南朝古寺雨新晴

南朝の古寺 雨新晴

仰看嬋娟萬朶櫻

仰ぎ看る嬋娟たる万朶の桜

春去春來一千載

春去り春來たる 一千載

延元陵上鳥空鳴

延元陵上 鳥空しく鳴く

優秀賞

神奈川県 亮泉 横溝喜久男

過阿蘇草千里

阿蘇草千里を過る

遙望蘇嶽上噴煙

遙かに望めば蘇岳噴煙を上げ

曠野青青草色鮮

曠野青青 草色鮮やかなり

人馬悠然戲池畔

人馬悠然として池畔に戯れ

快風吹度白雲天

快風吹き度る 白雲の天

優秀賞

大阪府 光琇 永野光三

宮古島曉景

宮古島の曉景

雲散海滄春色開

雲散じ海滄くして 春色開き

渚清沙白曙光催

渚清く沙白くして 曙光催す

南洋萬里作遊子

南洋万里 遊子と作り

始得濯纓除俗埃

始めて得たり 纓を濯い俗埃を除くを

優秀賞

鳥取県 濱崎厚子

清冬朝

清冬の朝

庭樹鳥聲催起牀

庭樹の鳥声 起床を催し

徐開帷帳忽涼涼

徐に帷帳を開けば忽ち涼涼たり

屋檐一尺垂氷柱

屋檐一尺 氷柱垂る

恰似刀鋒射曉光

恰も 刀鋒に似て曉光を射る

優秀賞

熊本県 米田匡彦

雨天讀書

雨天讀書

首夏庭中草色青

首夏庭中 草色青く

村村連日雨冥冥

村村連日 雨冥冥たり

悠然倚机繙書卷

悠然として机に倚り 書卷を繙く

窓外流鶯側耳聽

窓外の流鶯 耳を側てて聴く

優秀賞

大分県 麟涯 近藤俊彦

江亭避暑

江亭の避暑

開牖孤斟湖畔亭

牖を開いて孤り斟む湖畔の亭

清風徐到醉初醒

清風徐るに到りて酔い初めて醒む

仰天何故銀河粲

天を仰げば何故に銀河粲たる

無月無雲螢又螢

月無く雲無く 螢又螢

佳作

群馬県 幽風 須藤 章

雪中即事

雪中即事

寒厨燈下妻溫酒

寒厨の灯下妻酒を温め

壓雪庭前我拂枝

圧雪の庭前我枝を払う

半夜圍爐同一醉

半夜炉を囲んで同一に酔す

映窓柳絮最清奇

窓に映じて柳絮最も清奇なり

佳作

神奈川県 虚舟 岡嶋宣昭

雨後春望

雨後の春望

雨歇城南春氣加

雨歇む城南 春氣加わり

東風麥隴長新芽

東風麦隴 新芽を長ず

翩翩相趁雙胡蝶

翩翩相趁う 双胡蝶

忽入小畦黃菜花

忽ち入る小畦 黄菜花

佳作

神奈川県 翠竹 金澤武司郎

寄合歡花

合歡の花を寄す

雨過園林炎暑衰

雨過ぎて園林 炎暑衰え

合歡花絳帶煙披

合歡の花絳く煙を帯び披く

蕉翁往昔比西施

蕉翁往昔 西施に比す

踏露裁來贈所思

露を踏み裁ち來りて思う所に贈らん

佳作

神奈川県 淡雪 木村 孝

雨夜懷良人

雨夜良人を懷う

空房半夜雨聲深

空房半夜 雨声深し

床下蕭條促織吟

床下蕭条 促織吟ず

長路客中無恙否

長路の客中 恙無しや否や

一聽松韻又停針

一たび松韻を聴きて又針を停む

佳作

神奈川県 一炊居 平賀康雄

山寺初夏

山寺初夏

積翠層巒曉露鮮

積翠層巒 曉露鮮やかなり

簷鈴響谷澗聲連

簷鈴谷に響き 澗声連なる

老僧不識塵寰事

老僧識らず 塵寰の事

獨坐苔階調素絃

獨り苔階に坐し素絃を調う

佳作

長野県 臥龍 北村敏雄

梅霖夜

梅霖の夜

甘雨無休入二更

甘雨休む無く二更に入る

微聞溜韻對燈檠

微かに溜韻を聞いて燈檠に對す

案頭獺祭閱書簡

案頭の獺祭 書簡を閲し

自笑一詩猶不成

自ら笑う一詩 猶成らざるを

佳作

静岡県 柳村 青野溥芳

初夏綠陰

初夏綠陰

傲遊最好是吾居

傲遊最も好し 是れ吾が居

清晝無人閑讀書

清昼人無く閑かに書を読む

綠樹新陰如水處

綠樹新陰 水の如き処

薰風一枕入華胥

薰風一枕 華胥に入る

佳作

愛知県 大矢恒久

夏日吟行

夏日吟行

覓句携書遊梵林

句を覓め書を携えて梵林に遊ぶ

竹房苔徑晝沈沈

竹房苔徑 晝沈沈

白雲來去清風下

白雲來たり去る 清風の下

想起高僧坐石吟

想起す高僧の石に坐して吟ずるを

佳作

愛知県 博風 川口進博

新年多度山下大黒樓賦詩

曾有文人墨客游

曾つて文人墨客の游あり

曲廊水榭古風留

曲廊水榭 古風を留む

師生案句擬金谷

師生句を案じて金谷に擬し

不用罰杯席自悠

用いず罰杯 席自ずから悠なり

佳作

熊本県 友咲 栗崎咲子

吟行知足

吟行して足るを知る

梅花既發早鶯聲

梅花既に発き 早鶯の声

曲徑吟行春意盈

曲徑吟行すれば春意盈つ

心事青雲秋月念

心事 青雲 秋月の念い

平生知足一身輕

平生足るを知りて一身輕し

入選

宮城県 岳詠 山根敏春

山寺有感

山寺感有り

信步吟哦隨處春

歩に信せ吟哦す 隨處の春

羊腸古刹鳥聲頻

羊腸の古刹 鳥声頻りなり

鐘樓一杵幽玄響

鐘樓一杵 幽玄響き

須養心魂洗世塵

須く心魂を養い世塵を洗うべし

入選

茨城県 伯韻 會沢剛史

清夜待月

清夜待月

白晝携樽遊舊苑

白晝樽を携え旧苑に遊び

黄昏寫景賦新詩

黄昏景を写して新詩を賦す

銀蟾東出影隨我

銀蟾東のかたに出ずれば影我に隨う

正是當歌對酒時

正に是れ當歌 對酒の時

入選

栃木県 齋藤昌枝

井畔猫眠

井畔猫眠る

午余村巷麦風涼

午余村巷 麦風涼し

寂寂無人農事忙

寂寂として 人無きは 農事忙し

碩鼠徘徊遊井畔

碩鼠徘徊 井畔に遊ぶも

懶猫閑却黒甜長

懶猫 閑却 黒甜長し

入選

群馬県 加辺宏味

春日郊行

春日郊行

桃花發處雨晴初

桃花発く処 雨晴るる初め

風暖江南柳眼舒

風暖かに江南 柳眼舒ぶ

童子津津追野蝶

童子津津 野蝶を追い

村翁蹇蹇種園蔬

村翁蹇蹇 園蔬を種う

入選

群馬県 芳泉 小井土幾代

花下喫茶

花下茶を喫す

尋訪山南故友家

尋訪す山南 故友の家

薔薇的曆戸庭誇

薔薇的歴 戸庭に誇る

新茶喫處微風渡

新茶喫する処 微風渡り

二様香來日已斜

二様の香り来って日已に斜めなり

入選

群馬県 松風 小井土政世

誰何

誰何

鼠影何爲牛舎無

鼠影何為れぞ 牛舎に無きは

牧童頻訝有誰扶

牧童頻りに訝る誰有りてか扶けんと

埋頭乾草凌風雪

頭を乾草に埋めて風雪を凌ぎ

滿肚野猫眠一隅

満肚の野猫 一隅に眠る

入選

埼玉県 木村 浩

歳朝

歳朝

東天雲散曙光紅

東天に雲散じ曙光紅なり

相映梅花淑氣通

相映す梅花に淑氣通じ

快飲歳朝詩已就

快飲の歳朝 詩已に就る

人生万事酒杯中

人生万事 酒杯の中

入選

東京都 太沖 岡田 讓

朔風吹葉

さくふうすいよう
朔風吹葉

北風吹亂入荒園

ほくふうふ みだ
北風吹き乱れて荒園に入り

落木蕭蕭夕照昏

らくぼくしょうしょう
落木蕭蕭として夕照昏し

盡日待人人不至

じんじつひと ま
尽日人を待てども人至らず

唯聞敗葉打柴門

た はいよう さいもん
唯だ敗葉の柴門を打つを聞くのみ

入選

東京都 田代祐基

井畔貓眠

せいはんびようみん
井畔貓眠

家婦三人占井邊

か ふさんにん せいへん
家婦三人 井辺を占め

高談笑語四方傳

こうだんしょうご しほう
高談笑語 四方に伝わる

野貓知否皆閑話

やびようし いな みなかんわ
野貓知るや否や皆閑話であること

樹下欠伸貪惰眠

じゆかけつしん だみん むさ
樹下欠伸して惰眠を貪ぼる

入選

東京都 梨雪 高橋純子

禪院看花

ぜんいんかんか
禪院看花

曉靄濛濛殘月垂

ぎょうあいもうもう ざんげつた
曉靄濛濛 殘月垂る

幽庭曳杖到清池

ゆうていつえ ひ せいち
幽庭杖を曳きて清池に到る

無風依約微香動

かぜな いやく びこううご
風無きに依約として微香動く

一朵白蓮花綻時

いちだ びやくれん はなほころ
一朵の白蓮 花綻ぶの時

入選

神奈川県 虚舟 岡嶋宣昭

秋夜舟遊

しゅうやしゅうゆう
秋夜舟遊

西風暮雨坐來收

せいふうぼう ざらい おさ
西風暮雨 坐來に収まり

渺渺大江涵月流

びようびよう だいこう つき ひた
渺渺たる大江 月を涵して流る

十里水天銀一色

じゅうり すいてん ぎんいつしよく
十里の水天 銀一色

空明入棹作清遊

くうめい さお い せいゆう
空明に棹を入れて清遊を作す

入選

神奈川県 翠竹 金澤武司郎

生還

生還

敗歸獨自佇沙汀

敗れて帰り ひとり 自ら沙汀に佇む

塗土軍靴想友朋

土に塗る軍靴 友朋を想う

時聽犬吠村里晚

時に犬吠を聴く 村里の晩

柳陰隱見我家燈

柳陰に隱見す 我が家の燈

入選

神奈川県 小葉 仁上恵子

甲州途次

甲州途次

葡萄多彩路傍園

葡萄多彩なる路傍の園

枝上如垂萬顆繁

枝上垂るるが如く万顆繁し

客子極歡含美玉

客子歡を極めて美玉を含み

酒人乘興醉芳樽

酒人興に乗じて芳樽に酔う

入選

愛知県 芳親 深谷育代

早春

早春

浮香幽艷白梅花

浮香幽艷 白梅花

鳥雀低徊啄草芽

鳥雀低徊 草芽を啄む

步步小園風尙峭

步步小園 風 尙お峭し

遠山殘雪一望遐

遠山殘雪 一望遐かなり

入選

三重県 穎風 伊藤秀治

訪古津跡

古津の跡を訪ねる

要津無跡那邊迷

要津の跡無く 那邊か迷い

折葦枯蘆掩古堤

折葦枯蘆 古堤を掩う

沙上殘船似埋骨

沙上の殘船 骨を埋めるに似て

群鴉何事一時啼

群鴉何事か 一時に啼く

入選

兵庫県 秋風 藤田 修

吉野山櫻

よしのさんおう
吉野山桜

紅塵疊嶂白雲峰

こうじん じょうしよう ぱくうん みね
紅塵の疊嶂 白雲の峰

滿眼櫻花人始鍾

まんがん おうか ひとし かね
滿眼の桜花 人始めて鍾まる

曾隱山中迷雪徑

かつ さんちゆう かく せつけい まよ
曾て山中に隠れ 雪徑に迷う

判官靜女孰枝逢

はんがんせいじょ いず えだ あ
判官靜女 孰れの枝にか逢わん

入選

徳島県 松毬 姫田照子

幽居

ゆうきよ
幽居

光風習習雨餘天

こうふうしゅうしゅう うよ てん
光風習習 雨余の天

鳥語啾啾自那邊

ちようごかいかい なへん
鳥語啾啾 那邊よりかす

午下枕肱環堵睡

ご かひじ まくら かんと ねむ
午下 肱を 枕に 環堵に 睡る

世榮萬事我無縁

せいえいばんじ われ えんな
世榮萬事 我に縁無し

入選

福岡県 紫響 馬場武志

初夏廢宅

しよか はないたく
初夏の廢宅

舊居傾盡綠苔侵

きゆうきよ なたむ つ りよくたいおか
旧居は傾き尽きて 緑苔侵し

庭院蕭然野草深

ていいん しょうぜん やそうふか
庭院は蕭然として 野草深し

羅薜鬱蒼驚蔓絡

らへいうつぞうつる まと おせう
羅薜鬱蒼蔓の絡に驚くも

門前如昔作新陰

もんぜんむかし ごと しんいん な
門前昔の如く 新陰を作す

入選

佐賀県 桜敢 副島陽子

故山看花

こざんかんか
故山看花

尋友欣然省故郷

とも たず きんぜんごきやう せい
友を尋ね欣然 故郷を省す

山河如旧幾星霜

さんがきゆう ごと いくせいそう
山河旧の如く 幾星霜

老桜爛漫花吹雪

らうおうらんまん はなふき
老桜爛漫 花雪を吹き

彷彿青春夢一場

ほうふつ せいしゆん ゆめいちじやう
彷彿たり 青春の夢一場

入選

熊本県

中野道隆

夜座偶成

やざぐうせい

求道離郷四十年

みち もと きよう はな よんじゅうねん

参禅入室喫瞋拳

さんぜんにすしてしんけんをきつ

齒疎頭禿夢何醒

はまば あたまかむろ ゆめなん さ

只管修行志愈堅

ひたすらしゆぎよう 志 愈いよ堅し

若年奨励賞

東京都

入山美桜

冬日偶成

とうじつぐうせい

吐気濛濛落袖裙

と きもうもう しゅうくんに お

恰如夏日一浮雲

あたか かじつ いちふうん ごと

還思子規樹前舞

ま おも しき じゆぜん ま

早曉嬌声吾欲聞

そうぎよう きようせい われき ほつ

若年奨励賞

東京都

梅谷美澄

遊尾瀨湿原

おぜしつげん あそ

上丘下澗仰干天

おか のぼ たに くだ かんてん あお

緩歩板橋芳朶鮮

はんきよう かんぼ ほうだあざ

草帽单衣思旧友

そうぼうたんい きゆうゆう おも

空原喫茗意陶然

くうげん めい きつ いたうぜん

若年奨励賞

東京都

加藤 穂

秋風落葉

しゅうふうらくよう

頭挿茱萸遠近芳

こうべ しゆゆ えんきんかんば

大街銀杏樹初黃

たいがい ぎんきよう じゆはじ

忽然葉葉乘風落

こつぜん ようよう かぜ じよう お

呵手唯思鷄黍嘗

て か ただおも けいしよ な

若年奨励賞

東京都

川見彩晴

春日過荒川

しゅんじつあらかわ よぎ
春日荒川に過る

午下曇天行水長

ご かどんてん こうすいなが
午下曇天 行水長し

送春吹笛坐堤塘

はる おく ふえ ふ ていとう
春を送らんとして笛を吹き堤塘に坐す

爽風一過回頭処

そうふういつか こうへ めぐ
爽風一過 頭を回らす処

青碧楊枝映夕陽

せいへき ようし せきよう えい
青碧の楊枝 夕陽に映ず

若年奨励賞

東京都

反町優希

山中清暁

さんちゆうせいぎよう
山中清暁

甲州草屋起金風

こうしゆう そうおく きんぼうお
甲州の草屋 金風起こる

早起孤行西又東

つと お ここう にしまたひがし
早起 孤行す 西又東

岩上浴陽心体展

がんじょうひ あ しんたいの
岩上陽を浴び 心体展ぶ

陶然聞桂碧林中

とうぜん かつら き へきりん うち
陶然として桂を聞く碧林の中

若年奨励賞

東京都

田端あかり

雪後

せつご

雪覆千山寒気生

ゆき せんざん おお かんきしやう
雪は千山を覆いて寒気生ず

風吹凍雀樹無声

かぜ とうじやく ふ き こえな
風は凍雀を吹きて樹に声無し

微光遠嶺思郷国

びこう えんれい きやうこく おも
微光の遠嶺 郷国を思う

静寂郊原人行かず

せいじやく こうげん ひとゆ
静寂なる郊原 人行かず

若年奨励賞

東京都

藤田丸睦

初雪

しよせつ

早晨呵手出柴門

そうしんて か さいもん い
早晨手に呵して柴門を出づ

初雪飄零幼少喧

しよせつひやうれい しょうしょうかまひす
初雪飄零 幼少 喧し

鼓勇翻身雪中暖

ゆう こ み ひるがえ せつちゆうあたた
勇を鼓し身を翻せば雪中暖かなり

空茫一片自無言

くうぼういつぺん おの げんな
空茫一片 自ずから言無し

若年奨励賞

東京都

山元栄美

春遊御溝

春に御溝に遊ぶ

午下出遊乗画船

午下出遊して画船に乗る

金簫銀笛笑声伝

金簫銀笛 笑声伝う

堤辺酔客揺桜樹

堤辺の酔客 桜樹を揺らし

幾百素葩浮碧川

幾百の素葩 碧川に浮かぶ

若年奨励賞

東京都

堤 那月

葡萄酒

葡萄酒

父祖楽吟孫女陪

父祖吟を楽しむ孫女陪す

琵琶一曲北風来

琵琶一曲 北風来る

他年吾到笄冠歳

他年吾笄冠の歳に到らば

方酌夜光芳酒杯

方に酌まん 夜光芳酒の杯

若年奨励賞

東京都

江水 柳澤知希

坐地鉄過荒川

地鉄に坐して荒川に過る

上来地鉄共吟歌

地鉄に上り来たりて共に吟歌す

讓席車中笑語多

席を譲り車中 笑語多し

隧道初穿疑是海

隧道初めて穿ち疑うらくは是れ海なるかと

忽觀白浪古懸河

忽ち觀る白浪の古懸河

高壽奨励賞

福岡県

廬山 日置 猛

翁媪情懷

翁媪の情懷

安貧心泰喜身全

貧に安んじ心泰く身の全きを喜び

風雨同舟幾變遷

風雨同舟 幾變遷あり

日月如梭俱鶴髮

日月梭の如くして 俱に鶴髮なり

銜杯談咲樂殘年

杯を銜みて談咲し殘年を楽しまん

高壽奨励賞

千葉県 覚舟 小林覚道

春日遊山寺

春日山寺に遊ぶ

莊嚴山寺俗情忘

莊嚴たる山寺 俗情忘る

鴉散深閑古法堂

鴉散じ深閑たる古法堂

合掌誦經先拝仏

合掌誦經して先ず仏を拝すれば

老僧切切説無常

老僧切切として無常を説く

高壽奨励賞

大阪府 輕舟 鹿児島秀夫

送春有感

送春感有り

夜來風雨落花頻

夜來の風雨 落花頻なり

滿地紅芭都作塵

滿地の紅芭 都てに塵と作る

時聽老鶯聲惻惻

時に聴く老鶯の聲惻惻

傷心把酒惜徂春

傷心酒を把り 徂春を惜しむ

高壽奨励賞

熊本県 友愛 山口恵美子

櫻花斟酌

櫻花斟酌

晴空千里萬櫻開

晴空千里 万桜開き

春意盈盈吟興催

春意盈盈 吟興催す

盞泛花香添雅趣

盞に花香を泛かべ雅趣を添え

與朋交酌隔塵埃

朋と酌み交わせば塵埃隔つ